



篤いメッセージを伝える喜谷理事長⑥



展示写真から

職員の様子が撮影された写真約70点が展示された。撮影者である写真家の廣田比呂子氏は「撮影をして子どもたち以上に輝いていたのはご家族の笑顔でした。見ている人まで幸せにするたくさんの家族写真になりました」と話している。

期間中は同大学生や関係者、高校生を含む市民など450名超が訪れると共に、英国在住の喜谷昌代同財団理事長も来場した。

重い病気を持つ子供と家族の日々

## 宇都宮大写真展「生きる喜び」

宇都宮大学は10月31日～11月5日、一般財団法人重い病気を持つ子どもと家族を支える財団(キッズファム財団)及び認定NPO法人うりずんととの共催による写真展「生きる喜び」重い病気を持つ子どもと家族の日々」を、学生の協力を得ながら峰キャンパスの峰



森川亮氏⑤と代学群3年)「チーム」には、森川氏から優勝カップが手渡された。

テ!留学JAPAN」のチェコ留学で得たものは?」というテーマで発表を行い、生徒自ら進行も担当した。

午後の部では、ポッチャ交流とアダプテッドスポーツ交流が行われた。

ヶ丘講堂で開催した。

写真展は、「家族写真を撮りたいけれど、写真館へ行くのは難しい」というある家族の夢を叶えるためにキッズファム財団が実施してきた事業「記念日写真プロジェクト」の一環で、医療型短期入所施設「もみじの家(国立成育医療研究センター、東京都)」、重い障害児の日中一時支援等を行う施設「うりずん(宇都宮市)」を利用する子どもや家族、